発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033～4
編集兼発行人　杉本一男
半年間 1,200円 送料共
振替口座番号
労金大牟田
0968946—005

公判お知らせ

11・9 三池大災害裁判公判 九月十七日午後一時から、福岡地方裁判所で。(45回)

9・28 坑内火災裁判公判 十月六日午後一時から、同右裁判所で。(38回)

生命と権利を守ろう

一九八二年度 定期総会終わる

三池労組は七月二十五日午前九時から、大牟田労働金庫二階ホールで一九八二年度の定期総会を開き、激動する内外情勢のもとで、たたかうための向こう一年間の行動方針と予算を決定。大会宣言、スローガンなどを採択し終わりました。また総会には、北炭夕張新鉱のオルグも出席しました。

定期総会は、組合歌「炭掘る仲間」の合唱ではじまり、議長団のあいさつ、書記任命のあと、この一年間に資本の犠牲となった仲間に黙とうを捧げました。

つづいて退職者表彰に移り、六十三人の定年退職者と三人の物故組合員一人ひとりに森田組合長から表彰状(総評議長・炭労委員長・三池労組組合長の連名)と記念品が手渡されました。表彰の終りに古賀健治さんが立って「資本と対決しながら、労働者として正しい道を歩んでこられたのは、仲間のささえがあったから……退職しても、あらゆる場所で頑張る」と力強くお礼のあいさつをのべられました。

退職者が拍手に送られて退場したあと、組合長があいさつ(別項)。つづいて三池主婦会島会長があいさつしました。このあと北炭夕張新鉱支部の葛西米春福祉対策部長と門脇真昭執行委員が紹介され、葛西部長が「昭和五十年の幌内災害以後六年間、再建を願って歯を食いしばって働いてきた結果が災害だった。……北炭は政府に金を出させて整理し、会社をつぶす意図だが、絶対許せない。……全力をあげて頑張る」と、現状報告と決意の表明をしました。

また来賓あいさつでは、大牟田荒尾両地評を代表して荒地評=式島正光会長、社会党=蓮尾大牟田総支部長、共産党=下川忠範福岡県委員、政治局を代表して浦川守福岡県議がそれぞれ国内、国外の情勢の特徴、労働運動、平和運動、国民生活の問題点などを指摘しながら、三池労組が今後団結しながら、国民への収奪体制を強行してきました。

これらに対する闘いは必ずしも十分ではありませんでしたが、今後も職場における日常の闘いを強め、働く者の生命と権利を守るために奮闘しなければなりません。

石炭資本の閉山合理化、人殺し政策に反対し、炭労第九十八回定期大会で決定されたように、ヤマを残し、未払い労務債の完全支払いをかちとり、国民のためのエネルギー政策を確立する以外に炭鉱労働者の生きる道はありません。

地下産業に働く仲間の生命と暮らしを守り、夕張新鉱再建闘争に全力を傾注することを確認しようではありませんか。

本日の定期大会を契機として、より闘いを前進させ、明年闘われる八三年政治決戦で勝利し、働く者の生命と権利を守るため、さらに団結を固め前進することを誓いあいさつといたします。

森田組合長のあいさつ (要旨)

昨年十月、北炭資本の保安サボによって、夕張新鉱で大災害がひき起こされました。本日は代表二人の方が現地からオルグとして派遣され、現状の報告と決意表明を受けることになっております。

定期大会にご出席の代議員の皆さん、ご苦労さまです。

また、ご多忙中にもかかわらずご出席いただきました来賓の皆さんに深く感謝申し上げます。

—略— アメリカによる限定核戦争の可能性の示唆は、戦争への不安をかきたて、平和を愛する世界各国の人びとは反核・反戦・平和を合言葉に結集しました。わが国でも、ノーモア広島、ノーモア長崎の声はこだまし、草の根運動として大きく広がっています。

このような、平和を愛する勤労国民の声を無視する鈴木自民党内閣は、行政改革の名のもとに軍事費の増額、福祉切り捨てをすすめながら、国民への収奪体制を強め一方では灰色かくし、金権腐敗政治のもとで、自主防衛と海外進出を二本の柱とする軍事大国、改憲路線を突きすすんでいます。

三井資本は、四山鉱の人車スピードアップ、生産計画のミスによる三川鉱の異常出水と四山鉱への応援、部内の統廃合、新賃金の棚上げ、さらに港務所の白黒分離にともなう職能給制度の大幅導入、退職金制度の改悪など、あいつぐ減量合理化を強行してきました。

これらに対する闘いは必ずしも十分ではありませんでしたが、今後も職場における日常の闘いを強め、働く者の生命と権利を守るために奮闘しなければなりません。

ご出席いただいた来賓の方々
(順不同・敬称略)

荒尾地評=式島正光会長、同=桃島博明事務局長、日本社会党(政治局員)=浦川守県議、百田悟市議、民本清喜市議、湯村誠男市議、浦浜真光市議、坂本敏雄市議、福川次郎市議、蓮尾信治郎市議、日本共産党=下川忠範福岡県委員、労働金庫=近藤保大牟田支店長、三池主婦会=島文枝会長。

祝電を寄せられた方々
(順不同・敬称略)

日本炭鉱労働組合、三菱高島炭鉱労働組合、大牟田地評、熊本県労働金庫、衆議院議員=細谷治嘉、同=森中守義、参議院議員=阿具根登、同=安恒良一、同=小野明、同=小柳勇。

この日の総会では、きびしい情勢をきりひらき、団結を固めて前進することを誓つた。(写真は開会冒頭の組合歌合唱)

期末闘争を妥結

四十四万円、低額に不満

地下労働者にふさわしい期末手当をと、前期につづいて五十万円を要求して闘いましたが、二十三日の二十四時間ストを前にして、二十二日午後十時十分、炭労中闘は交渉を妥結、スト中止を指令しました。

妥結内容は、前期妥結額三十三万三千円に七千円をプラスした四十四万円で、内訳は——

期末手当	四〇一、〇〇〇円	
生産協力金	二七、〇〇〇円	
福利厚生費	一三、〇〇〇円	
計	四四、〇〇〇円	

となっています。

会社側は、①経済の停滞が深まっている。②雇用状況が悪化している。③鉄鋼、電力の需要が鈍化している。④炭価アップの見通しがたたない、などの理由で引き上げは困難だという姿勢でした。

中闘は、深刻な論議を重ね、炭鉱労働者の尺度からは不満ではあるが、情勢判断の結果妥結にふみ切り、今後のたたかいに期することを意志統一しました。

会社、配分を強行

期末手当の妥結にともない、七月二十七日山元の配分交渉を行ないました。三池労組の要求は生活給部分となる扶人部分七十五パーセント、所得給部分二十五パーセントでしたが、会社は自案を譲らず次のような配分を強行します。

本人給	一八二、九四八円 (四一・六四%)
家族給	一人当り六、五〇〇円 (二・六八%)
勤続給	一年当り三、一〇〇円 (一一・七三%)
所得給	〇・一三九四七 (四三・九五%)

期央・期後退職者、その他については掲示などを参照のこと。港務所については省略します。

なお支給日は八月七日(土)。

有明鉱で死亡災害

七月二十九日午後二時ごろ、三池鉱業所有明鉱(黒田祐史鉱長)の南新開百八十メートル坑道西十五卸五目抜付近で作業中の坑内機械員・村上春人さん(47)=大牟田市宮山町八の一=が倒れた枠で後頭部を打撲、死亡されました。

村上さんは同僚三人とともに、古い揚水管(塩ビ・六インチ)を新品に取り替え中で、接続の際ずれたパイプを引き上げるために、枠脚にチェンブロックをかけ、パイプを引き上げ中、倒枠したもので、作業指示の不徹底、対策無視など会社の責任は明白です。

犠牲となられた村上さんに哀悼の意を捧げるとともに、会社に対し強く抗議します。

三池労組では、社葬日の三十一日に抗議と保安確保、責任追及の時限ストに突入しました。

北炭真谷地で落盤災害

七月二十三日午後七時七分ごろ北炭真谷地炭鉱で落盤災害が起こり、採炭員の戸松秀雄さん(51)が死亡されました。つづいて哀悼の意を捧げるとともに、災害をひき起こした会社に強い怒りをこめて抗議します。なお、今年に入ってからの炭鉱災害に死亡者は十二人となりました。

退職者表彰を受けられた皆さんのご芳名
(分会編成順)

定期総会の日、表彰を受けられたのは次の皆さんですが、長い間本当にご苦労さまでした。こんごとも体に留意して、いっそうのご活躍を念じています。

なお、定年をまたずに逝去されたため退職された高口さん、竹川さん、山下さんには、あらためて哀悼の意を捧げます。

木村 又雄さん　村上 繁喜さん
山本 重人さん　北原 次雄さん
竹 金蔵さん　上田 義夫さん
藤末 成助さん　今井 楠夫さん
徳永 元保さん　落合 節男さん
沢村 親生さん　中島 利之さん
寺本 栄一さん　井出 司さん
池田 昭元さん　増田 金喜さん
岡浦 益実さん　東口 一男さん
塚本 正勝さん　早田 鶴男さん
小池 常男さん　古賀 健治さん
志水 重義さん　北里 国司さん
中村 敏晴さん　大村 公義さん
森田 昭一さん　野田 広喜さん
武田 武男さん　井上 幸雄さん
永野 博利さん　山野 義人さん
道上 寿さん　古賀 鶴男さん
西村 静男さん　中川 弘道さん
平井 健吾さん　嘉村 昭一さん
古城 睦也さん　上田 役市さん
西山 政弘さん　福田 徳昭さん
田中 始さん　平川 逸雄さん
塚崎 昭男さん　坂田 慶次さん
林田 繁行さん　原 吉男さん
勝永 末人さん　緒方 務さん
杉野 栄治さん　松藤 久さん
大眉陸之助さん　山下 稔さん
福田 満さん　熊本富士子さん
松川 亀記さん　堀 ケイ子さん
渋田 紀生さん　飯塚 英雄さん
丸田 勇さん　林田 勉さん
中山 清水さん
故 高口 哲雄さん
故 竹川 正則さん
故 山下 英明さん